

同窓会における「社会貢献活動」

佐々木康夫（高15回 在京飯田高校同窓会会長）

飯田高校同窓会会則に「社会に貢献していくことを目的とする」とあります。この「社会貢献」の項目は、平成22年の飯田高校独立110周年時、平田達元・在京同窓会会長の提案で、できたものでございます。その主旨は、現代の無関心社会を、我が同窓会の力で良い方向へ向けられないかということから出発しております。この目的に沿って「社会貢献委員会」が設立され、多々有益な活動を行っております。

まず、その活動のひとつに「高松賞」があり、在京同窓会の活動として大切な会誌『稲穂』の編集活動が、同窓生達の人間的な交わりをより深める為の場として、その役割を果たし続けていることから、平成25年、これを受賞致しました。

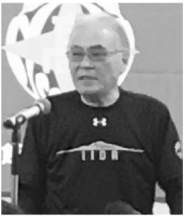
次に「社会貢献オープン講演」があり、毎年、社会貢献につながる講演会を開催。在校生達にとって、将来を考えるうえで大いに励みになっております。更には「ふるさとを元気にし隊」という名の活動です。この隊はあくまでもボランティア活動で、地域の児童、生徒、若い人達に役立つ活動をするものです。この隊員には、現在約50名が登録されております。

一方、飯田高校は1年生を対象に「キャリア教育」を実施しております。これは社会の有り様と自らの進路・職業について考察、社会人として自立し、社会貢献ができる為の基礎力を養成するものです。社会で活躍する同窓生達の職場、学校、地域等々を訪問し、生の状況を見聞するのです。この教育に、多くの同窓生達が対応させていただいていることから、これも同窓会の社会貢献活動の一環といえると思います。因みに、この教育活動は、平成26年度「文部科学大臣賞」を受賞しておりますことは、ご存知のとおりでございます。

昨年、在京同窓会は「法律相談室」と「パソコン操作相談室」を発足致しました。これらの詳細につきましては、在京同窓会のホームページ、及び、本誌106ページでご覧いただけます。

私は、同窓生それぞれが、飯田高校で培った資質をもって、地域、社会、仕事等々の分野で自分と社会とのつながりを自覚し、存在感をもって活動し得ていれば、立派に社会貢献していると考えます。同様に、同窓会の「社会貢献活動」は、同窓生が共に一丸となって、社会とのつながりを自覚し、社会の為に身近のところから、一歩一歩積み重ねていく活動と考えます。

従いまして、同窓生全員が心をひとつにして頑張っていきたいものです。
まず、同窓生相互が語り合うことから出発・始まりと致しましょう！



●ささき やすお 飯田市出身。早稲田大学第一法学部卒。昭和電工勤務を経て、現、ケミカルフォース会長。趣味は陶芸。東京都江戸川区在住。平成27年11月、第12代在京飯田高校同窓会会長に就任。